

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公告

⑫ 実用新案公報(Y2)

平3-4654

⑬ Int. Cl.

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公告 平成3年(1991)2月6日

E 04 F 13/08
E 04 B 1/70
E 04 F 13/14L 7023-2E
D 2118-2E
C 7023-2E
102

(全3頁)

⑮ 考案の名称 外装材の取り付け構造

⑯ 実 願 昭59-24751

⑰ 公 開 昭60-137032

⑱ 出 願 昭59(1984)2月23日

⑲ 昭60(1985)9月11日

⑳ 考 案 者 浦 久 保 圭 司 大阪府門真市大字門真1048番地 松下電工株式会社内

㉑ 考 案 者 小 川 誠 大阪府門真市大字門真1048番地 松下電工株式会社内

㉒ 出 願 人 松下電工株式会社 大阪府門真市大字門真1048番地

㉓ 代 理 人 弁理士 石田 長七

審 査 官 下 村 周 三

㉔ 参 考 文 献 実開 昭48-65023 (JP, U) 実開 昭56-100628 (JP, U)

1

2

① 実用新案登録請求の範囲

外壁本体の外面に複数枚の外装材を上位置する外装材の下部内面が下に位置する外装材の上部外面に重なるようによろい下見張り状に張り、上に位置する外装材と下に位置する外装材とを重ねる部分を粗面にすると共に外装材の上部外面に傾斜面を設けて成る外装材の取り付け構造。

考案の詳細な説明

【技術分野】

本考案は外壁本体の外面によろい下見張り状に張って外装材を取り付ける構造に関するものである。

【背景技術】

従来、外装材をよろい下見張り状に張った場合上下に隣り合う外装材の重ね合わせ面同士を密着させていた。このため外装材の外側と外装材の裏面側とが遮断されて外装材の裏面側に通気ができないという欠点があった。

【考案の目的】

本考案は叙述の点に鑑みてなされたものであつて、本考案の目的とするところは、重ね合わせ面を単に重ね合わせても通気できて外装材と外壁本体の間にも通気できる外装材の取り付け構造を提供するにある。

【考案の開示】

本考案外装材の取り付け構造は、外壁本体1の

外面に複数枚の外装材Aを上位置する外装材Aの下部内面が下に位置する外装材Aの上部外面に重なるようによろい下見張り状に張り、上に位置する外装材Aと下に位置する外装材Aとを重ねる部分を粗面4にすると共に外装材Aの上部外面に傾斜面9を設けたものであつて、上述のように構成することにより従来例の欠点を解決したものである。

以下本考案を実施例により詳述する。Aは外装材であつて、外装材本体2の外面上部の重ね合わせ面3を粗面4にしてある。外装材本体2は石棉スレート、珪酸カルシウム板、石膏セメント板などにて形成されている。外装材本体2の外面の上部には傾斜面9を切欠いてあり、その下の重ね合わせ面3の下には水切凹部5を凹設してある。外装材本体2の外面の下部には釘打ち用の溝6を設けてあり、外装材本体2の下端には水切縁7を有しており、水切縁7の内面側には切欠8を設けてある。また上記重ね合わせ面3を粗面4に形成するにあつては、重ね合わせ面3に接着剤11を塗布し接着剤11上に砂のような粒状の骨材14を散布する。かかる粒状の骨材14を散布する代わりに繊維材を植毛してもよい。

しかして上記のように構成せる外装材Aを外壁本体1の外面に取り付けるにあつては次のように施工される。外壁本体1は柱間にグラスウール

3

4

のような断熱材10を充填し、必要に応じて柱及び断熱材10の外面に通気性防水シート12を張って形成されている。この外壁本体1の外面に外装材Aがよろい下見張り状に張られ、溝8から柱に釘13を打入してそれぞれの外装材Aが柱に固着される。つまり下の外装材Aの上部の重ね合わせ面3の粗面4の外面に上の外装材A下部の内面が重なるように張られる。このように施工されると上下の外装材A間に粗面4により迷路のように迂回するとともに微小隙間の通気路が形成される。すると微小隙間の通気路を介して外装材Aの外側と内面側との間の通気ができ、外装材Aと外壁本体1との間に通気できる。この際通気路は微小隙間で迂回しているため水も浸入しにくく防水性がある。またたとえ通気路から毛細管現象にて水が浸入しても傾斜面9により水溜め15が形成されてそれ以上水が浸入しない。外装材Aを取り付けたとき外装材Aの上端が断熱材10の外面に接するが外装材Aの上端に断熱材10を押圧する金具を取り付ければ外装材Aの上端と断熱材10との間に通気用の空間を形成できる。

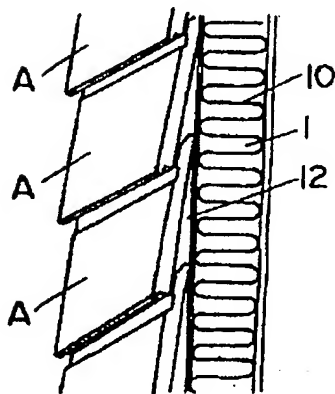
【考案の効果】

本考案は叙述のように複数枚の外装材をよろい下見張りするものにおいて、上に位置する外装材と下に位置する外装材とを重ねる部分を粗面にしたので、上下の外装材間に粗面により微小隙間の通気路が形成され、通気路を介して外装材の裏面側に通気できるものであつて、重ね合わせ面を単に重ね合わせるだけで外装材と外壁本体との間に通気できるものであり、しかも粗面で形成される通気路は微小隙間であるので、水も浸入しにくく、防水性もあるものであり、また外装材の上端外面に傾斜面を設けたので、傾斜面と上の外装材の内面との間に水溜めとなる空所が形成され、たとえ上記通気路から毛細管現象にて水が浸入しても水溜めとなる空所に水が溜まってそれ以上浸入しないものである。

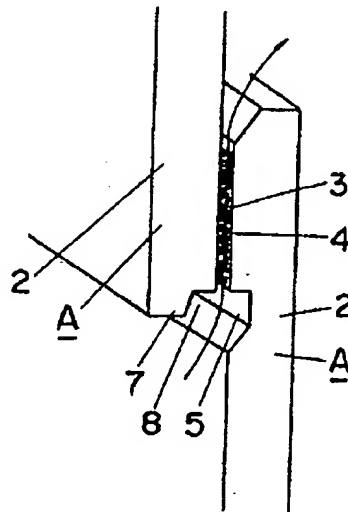
図面の簡単な説明

第1図は本考案の一実施例の施工状態の斜視図、第2図は同上の拡大断面図、第3図は同上の重ね合わせ部の斜視図、第4図は同上の粗面を示す斜視図であつて、Aは外装材、1は外壁本体、2は外装材本体、3は重ね合わせ面、4は粗面、9は傾斜面である。

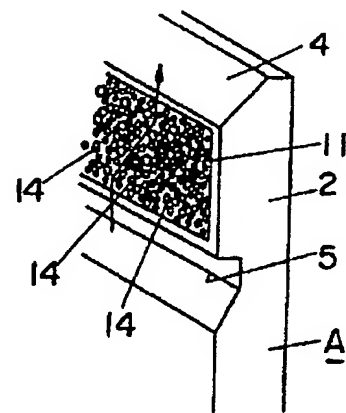
第1図



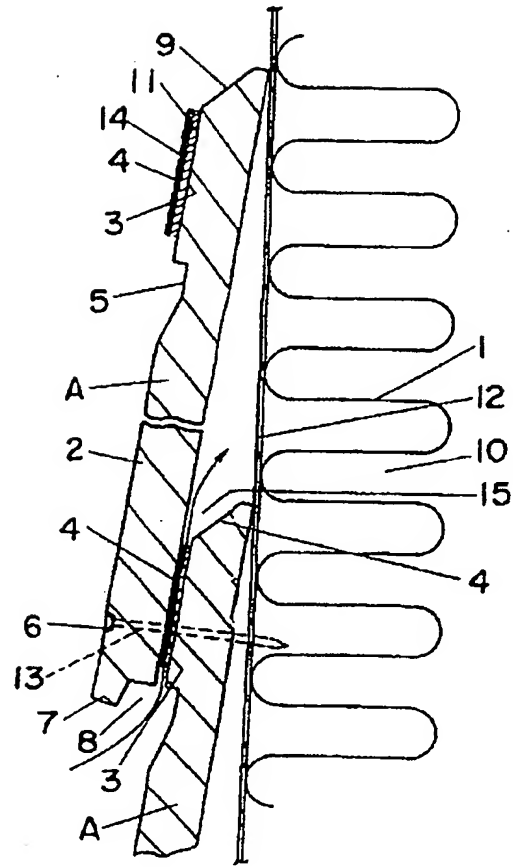
第3図



第4図



第2図



REST AVAILABLE COPY